

○令和6年度 第2回北九州市発達障害者支援地域協議会

1 会議名 令和6年度 第2回北九州市発達障害者支援地域協議会

2 開催日時 令和7年3月17日(月)18:55～20:25

3 開催場所 総合保健福祉センター2階 講堂

4 出席者

(1)構成員(敬称略)

長森健、中村貴志、倉光晃子、渡辺恭子、尾首雅亮、今本繁、金光律子、
大坪巧弥、北野里香、嶋村美由紀、伊野憲治、藤井敬太郎(計12人)

※中村座長が途中参加であったため、長森副座長が、座長を代行し議事を進行

(2)事務局

【保健福祉局】

障害福祉部長 坂元 光男

障害福祉部 精神保健・地域移行推進課長(発達障害担当課長) 角田 禎子

保健所 医務薬務課長(発達障害担当課長) 有門 美穂子

障害福祉部 精神保健・地域移行推進課 事業調整係長 西島 秀幸

障害福祉部 精神保健・地域移行推進課 主査 福田 稔

【子ども家庭局】

子ども家庭部 子ども施設企画課 指導支援担当課長(発達障害担当課長)

伊藤 京子

【教育委員会】

事務局学校教育部 特別支援教育課長(発達障害担当課長) 森永 勇芽

5 会議次第

【1 開会】

【2 議事】

(1)報告事項

令和6年度取組内容の進捗について

①発達障害児者支援における効果的な情報収集や情報発信の具体化

②発達障害児者支援に関する支援者(コーディネーター等)の交流機会の確保

③強度行動障害支援

(2)協議事項

次年度の取組について

【3 閉会】

6 議事録

(事務局)

- ・本日、中村座長は遅れて出席されます。また、古市構成員は欠席です。オブザーバーとして発達障害者支援センター「つばさ」から、黒木氏が出席されています。
- ・本日は、中村座長が不在のため、北九州市発達障害者支援地域協議会実施要領第5条3項に基づいて、議事の進行は長森副座長にお願いします。

(1) 報告事項

①発達障害児者支援における効果的な情報収集や情報発信の具体化

(事務局)

- ・4ページをご覧ください。第1回協議会で説明した今年度の3つの取り組みの実施状況及び来年度に向けての取り組みについて報告します。5ページをご覧ください。発達障害児者支援における効果的な情報集約や情報発信の具体化ということで、現在、発達障害者支援センター「つばさ」が支援機関の情報をまとめ、閲覧・ダウンロードできるホームページを作成しています。
- ・当初、ターゲットは主に支援に関わる方でしたが、ご家族・当事者の方も活用できるような支援機関ガイドを作成しているところです。
- ・前回の会議で、スマホなどで簡単に検索できるようにしてほしいなどの意見をいただきました。この点については今後の取り組みの課題ですので、何かしら対応できるよう考えていきたいです。
- ・支援機関ガイドには、ライフステージごとの支援機関が分かる図やライフステージごとの相談例も示されています。5ページ3にあるスケジュールのとおり、本日の協議会での意見も踏まて4月以降に「つばさ」のホームページに掲載し関係機関へ周知・案内を行っていきます。支援機関ガイドについて、ご説明をお願いします。

(構成員)

- ・7ページをご覧ください。目次にある支援機関に対して、アンケートを送付し回答いただいた情報を基に支援機関ガイドを作成しておりますが、あまり情報が上がってこなかった機関もあるので、各機関のホームページの情報も参考にしながら少し修正を加えました。今後は、各機関に掲載の了承をいただきます。
- ・8ページをご覧ください。ライフステージに応じた支援機関一覧表にある対象年齢があいまいなところがあるので、正しい情報を確認して掲載します。
- ・事務局からも話があったように、当初は相談支援従事者を対象にした支援機関ガイドを作成しようとして進めていましたが、「つばさ」のホームページを見る方は、これから相談する方や、発達障害に関して知識のない方もいますので、できるだけ分かりやすいガイドになるよう心がけました。
- ・ライフステージに応じた支援機関一覧表には、相談したい方の年齢でこういった機関が利用できるかを確認できます。また、9～12ページでは乳幼児期、学齢期、

青年期、成人期以降などライフステージごとの代表的な相談例を掲載していますので、どの機関が対象になるか参考にしてほしいです。

- ・各機関の掲載例として「つばさ」や指定相談事業所、親の会の紹介ページ(13～17ページ)を配布しています。ガイドに掲載できる情報は非常に限られますので、QRコードや施設名などをクリックするとその支援機関のホームページに飛ぶように工夫しました。
- ・今回は用意できてないですが、支援ガイドの最初に、ダウンロードの方法や、各機関のホームページのアクセス方法など支援機関ガイドの活用方法について掲載しようと考えています。また、各支援機関に向けて、掲載内容に変更があった場合は「つばさ」に連絡してほしいと一文掲載する予定です。
- ・情報の更新時期は1年がいいのか、2～3年がいいのか検討しますが、定期的に更新する予定です。本日、構成員の皆さんのご意見もいただいて、より良い支援機関ガイドしたいです。

(事務局)

- ・5ページの5に書いてあるように、支援ガイドの情報がしっかりと支援の必要な方に届くよう関係機関のみならず、幅広く周知したいと考えています。私たちだに限られた視野になってしまいますので、こういった機関にも周知した方が良いでしょう。構成員の方からご意見をください。

(構成員)

- ・今の事務局の説明についてご質問・ご意見をお願いします。

(構成員)

- ・親の立場からですが、こういった支援機関ガイドを作っていただいて非常にありがたいと思います。先ほどの説明で、支援に関わる方に活用してもらうことを目指すとの事でしたが、この「活用」の意味がよく分からなかったです。9～12ページの相談例は、親や当事者の悩みが掲載されていて、親や当事者がこれらの関係機関、障害福祉サービス等事業所に相談をした時に、他にもこんな支援機関があるよと支援に関わる方が紹介してつなげていく(活用する)ということでしょうか。
- ・支援ガイドの使い方は支援に関わる方、親・当事者で違うので、どちらに向けて周知したいのかによって広報の仕方は変わると思います。どのように、この支援ガイドを使って下さいとメッセージを出すのが大切だと思います。
- ・我々としては、QRコードを掲載したチラシみたいなものを作っていただいて、会員の方々や関係者に配ることができたらいいなと思います。

(事務局)

- ・今、言われたようにこういった支援機関があるよと紹介していただくとともに、できればその支援者が、この支援機関がどういう活動をしているか少し勉強してもらいながら、相談を受けた時にできるだけ伴走型で一緒に考えていただけるような形で活用してもらいたいです。活用の仕方が具体的に伝わるようチラシで工

夫したいです。

(構成員)

・久留米の方で発達障害についての理解が不十分な専門学校があると聞いたことがあるので、注意喚起という意味で大学や専門学校にもチラシを送ってほしいです。

(事務局)

・大学や専門学校に通う18歳、19歳、20歳の若い世代には、なかなか情報が行き届いてないと中村座長も言われていたので、大学・専門学校にも周知できるように努めます。

(構成員)

・支援機関ガイドは、ご家族や当事者向けでもあるという話でしたので、乳幼児健診の時に少し気になることを言われた場合などに、北九州市が進めている母子手帳アプリから支援機関ガイドの情報にアプローチできると良いと思います。

(事務局)

・乳幼児の親御さんに対してどのように周知できるか担当課に相談してみます。

(構成員)

・ライフステージに応じた支援機関一覧に、かかりつけ医が掲載されていない理由は何かありますか。

(構成員)

・乳幼児期:0歳～6歳の相談例(9ページ)には、かかりつけ医という文言を掲載しています。小児科にかかるのは主に乳幼児期と考え小・中学校は掲載していませんが、やはりかかりつけ医の役割は大きいでしょうか。私たちは、どこの病院にかかったらよいですか?とよく相談を受けるので、県が公表している医療機関リストの情報は、支援機関ガイドに掲載する予定です。

(構成員)

・おっしゃる通り、おそらく乳幼児期が主にかかりつけ医に行く機会が多いですが、学童期でも行く病院を決めている方も多いです。小児科医の立場から言えば、来ていただければ、相談は問題なく受けられると思います。

(構成員)

・「つばさ」が持っている医療機関リストとも上手くリンクする形になればよいと思いました。

(構成員)

・支援機関ガイドはまだ修正できるのですか?

(事務局)

・本日、構成員の皆さんの意見も踏まえて修正する予定です。

(構成員)

・最終的に掲載内容を決定するのは誰ですか?

(事務局)

- ・関係機関に修正がないか確認したあとに、事務局と「つばさ」で最終的に決定し、構成員の方に報告します。掲載内容については、決定後も随時、更新します。

(構成員)

- ・医療機関の掲載内容については、医師会に相談いただければ、どのように掲載するのが一番よいか検討します。

②発達障害児支援に関する支援者(コーディネーター等)の交流機会の確保

(事務局)

- ・20ページをご覧ください。令和6年度の計画で、発達障害児者の支援に関する意見交換や情報交換の場について、障害者自立支援協議会等の既存の仕組みを活用して設置を目指すとしておりました。2 取組状況に記載しているとおり、障害者自立支援協議会の中に障害の種別は問わず支援者同士が交流したり勉強したりする場として地域生活関係者交流会を試行的に活用しています。具体的には令和7年3月1日時点で6つの勉強会・交流会があり、ここで出てきた課題を協議会で吸い上げて対応できればと考えています。
- ・基幹相談センターが主として立ち上げた「障害児支援多職種交流会」は、障害児童支援に関わっている事業所、児童発達支援事業所、放課後等デイサービスの方々が多数参加しており、現在3回ほど開催しています。これまでこういった集まりはなかったと思うので、毎回70名程度と交流するには人数が多いと思われる位の方が集まっています。交流会の内容は、毎回、基幹相談センターがテーマを設定した講義があり、そのあと名刺交換や情報交換をしています。まだ、3回しか開催されていませんが、顔が見える関係を作っている状況です。
- ・関係する機関には交流会の情報提供は行っていますが、発達障害支援に携わっている支援者の方が参加しているかどうかについて把握できてない状況です。発達障害の子どもたちに関わっている方が多く参加している印象はあります。
- ・3 令和7年度についてですが、発達障害児の支援に携わる支援者が交流できる場を作ってはどうかと考えております。子どもから考えた理由は、子どものときに関わるサービス事業所数が非常に増えていること、あとは福祉分野だけではなく保育所・幼稚園の現場や教育の方々との連携・横の繋がりがやはり重要だなど考えたためです。これについて、構成員の皆さんからご意見をお願いします。併せて、すでにこういった場があるよ、こんなグループがあるよなど教えていただければ、そのようなグループの情報収集もしていきたいと思っています。
- ・令和7年度は今本構成員と有志の方で発達障害の支援に資する勉強会を開催しようと計画されていますので、ご説明をお願いします。

(構成員)

- ・基幹相談支援センターで企画され、私に話があったので参加するという立場です。

来年度に基幹相談支援センターから各方面に案内が届くと思いますが、今計画しているのは、知的障害や発達障害を有する障害児者に関わる支援者の方を対象とした研究会で、名前は変わるかもしれませんが、「ポジティブ行動支援実践研究会」です。

- ・年間5～6回、5月、6月、7月、11月、12月、2月の開催を予定しており、毎回テーマを決めて専門的な支援について勉強したり、福祉事業所、学校現場の先生、リハビリテーション等に関わってらっしゃる医療機関の方など、広く集まっていたいて、横の繋がり・ネットワークを作ることを目的にしています。
- ・障害児多職種交流会に多くの人に参加しているみたいなので、この研究会にも多くの人に来ていただいて、北九州市全体で盛り上げる会にしたいです。ちなみに、第1回目の日程は5月12日、時間は仕事が終わって集まれる時間、18時30分～20時の90分を予定しています。私の専門分野である発達障害の支援について勉強したり、参加者同士で交流できるような場にしたいと考えていますので保護者の方も含めご参加ください。

(構成員)

- ・最近、勉強会の数が増えており、参加する側としてはどれに参加したらよいのかわからなくなります。さきほど事務局から発達障害児の支援に関わる支援者交流会の開催を考えていると話がありましたが、既存の枠内で統一性を持った形で開催した方がよいのではないのでしょうか。一生懸命に勉強しようとする方は、全ての会に参加しようとしてしまうので、疲れ切ってしまう。地域スタンダードな支援の仕方などを学ぶ会であれば、幾つも分けなくて統合してほしいです。

(事務局)

- ・事務局として、色々あった方がよいのかなと思いましたが、増やすのではなく既存の会を広げて開催することについても検討します。

(構成員)

- ・コーディネーターの交流機会の確保について質問です。交流会等を開催するにあたって情報提供を行ったけれども発達障害支援に関わる人たちの参加について把握できなかったと事務局から報告がありましたが、発達障害支援に関する交流企画が十分に発信できていなかったという理解でよいのでしょうか？

(事務局)

- ・障害児支援者職種交流会については発達障害と大きくスポットを当てた情報発信をしてなかったので分かりづらかったのかなという点があります。

(構成員)

- ・昨年度のワーキンググループで、交流機会の必要性が上がった時に、交流の目的として、コーディネーターの育成、コーディネーターの組織の中での位置付け・定着もあったと思います。これらを達成するには、有意義な交流機会があり、そこで、困り感の共有やそれぞれの分野でイメージするコーディネーターのビジョンや目

指す像、コーディネーターを育成するには組織でどう動くかなど、形になるような計画があるといいと思います。

- ・色々な協議会はあっても、発達障害児者支援をベースとした交流機会を自ら企画して発足させるのは難しいと思いますので、各地域に火付け役的な人が必要だと思います。また、年に3, 4回あるのであれば、うち何回かは発達障害の分野に特化したテーマを企画するなど意図的なきっかけづくりが必要だと思います。
- ・先ほども意見がありましたが、協議会などすでにあるフレームの中で専門的な情報の共有や研鑽機会があった方がいいと思うので、コーディネーターが必要な知識技術に、行動分析などが含まれていく方が有意義なのかなと思います。誰もが必要だと思ったら参加できる形がいいと思います。

(事務局)

- ・角度を変えて研修会や交流会を開催しても8割方同じ方が参加しているという事実があります。会について知らないのか、知っていても参加しないのか分かりませんが、新たな方に参加してもらえるよう何かアプローチするためには、色々な研修・交流会を開催するのが良いのではないかという考えに至りました。色々やり方はあると思いますが、我々も試行錯誤しながらやっていきたいと考えておりますので引き続きご意見をお願いします。
- ・発達障害者支援地域協議会では構成員の皆さんからご意見をいただいて前に進んでいますが、この協議会や地域生活関係者交流会があることさえ知られていない、何やっている会なの？のというのが現状です。会のPR・周知についても今後力強くやっていこうと考えておりますので、引き続きご協力をお願いします。

③ 強度行動障害支援

(事務局)

- ・22ページをご覧ください。今後、強度行動障害の支援に関わる方々に対する研修を開催したいと考えており、3(3)にあるように事業所向けにアンケート調査を行いました。調査結果については後ほど報告します。
- ・3(1)事例検討会につきましては、引き続き自立支援協議会の中の交流会の一つとして開催しました。今年度は、事例検討会というよりも意見交換が主で、昨年度やってきた事例から見えてきた結果・課題を踏まえ、具体的にこういった施策が必要ではないか、具体的にこうやった方が良いのではないかなど協議しました。
- ・3(2)アウトリーチ支援体制については、色々な課題が出てくると思いますが、今あるメンバーや対応策でまずは行ってみようということで、今本構成員や「つばさ」の協力で事業所への支援を行いました。アウトリーチについてアドバイザーからコメントをお願いします。

(構成員)

- ・アウトリーチ支援とは、強度行動障害児者を受け入れている市内の福祉サービス

事業所に専門アドバイザーが訪問して、支援方法に関する助言を行い、利用者に対する効果的な支援を現場チームが取り組めるようにサポートするというものです。要するに施設のコンサルテーションみたいな感じです。

- ・令和3年に北九州市内の小規模事業所の仲間が集まり、強度行動障害の施策について協議しました。その結果を提言としてまとめ北九州市に提出しました。提言は7つありますが、その1つがアウトリーチ支援です。
- ・その間、国の施策も進んでいます。令和3年以前から国は強度行動障害支援者養成研修を各地域の障害福祉事業所の職員に向けに開催しています。アンケート結果から見て、北九州市内でも200数十名が受講しているのではないかと推測されますが、強度行動障害児者が減少した、強度障害児者を受け入れる事業所が増えたなどの効果があるのかは不明です。
- ・強度行動障害者への支援施策を検討する有識者会議を国も開催しているようですが、会議の中で、講義形式での研修は、あまり効果がなく支援現場へのコンサルテーションの方が効果的であると言っています。また、全国の強度行動障害に対する先進地域では専門家によるアウトリーチ支援が試みられているようです。
- ・後ほど強度行動障害の集中的支援の話も出ると思いますが、広域的人材がアウトリーチ支援の役割を担うと考えられ、今後、北九州市も国からその人材を求められます。そういったこともあり、試行を通してプログラムを運用する具体的な手続きや課題を明らかにするために今年度開始しました。また、何の裏付けもないまま実施しても意味がないので、「つばさ」の事業に私と「つばさ」のスタッフが専門アドバイザーとして介入する形で実施したわけです。
- ・事例については、私の有志の会に所属する相談支援事業所のスタッフに紹介してもらいました。また、チームにつきましては、サービス提供事業所、小倉南地域活動センター、放課後デイサービスの主任、オブザーバーとして事例の方が所属している特別支援学校の担任の先生が参加しました。
- ・個人情報になりますので、事例の方の詳細は割愛しますが、事業所に初めて訪問したのは令和6年11月8日です。色々なフォームを活用して事例の方のアセスメント情報を共有し、事業所内での日課、行動問題の具体的な状況を確認しました。
- ・事業所内での生活、好みや嫌いなことなど日々の行動記録を取ってもらわないと実態は正確には分からず、分析できないので、行動問題を強めてしまうような要因を探るためのシート(ABC分析の記録用紙)類を事業所に渡しました。ABC分析の記録用紙は強度行動障害の支援者研修会等で配布・紹介されているようなシートを少しアレンジしたものです。
- ・11月9日～29日までの間、記録を取ってもらうようお願いしました。この間に我々は参加していませんが、事業所内で相談支援事業所のスタッフと協議等が行われたようです。期間終了後、アドバイザーで分析させていただきました。
- ・次に訪問したのは12月20日で、分析結果の提供・報告や問題行動の原因、支援

環境活動メニュー、支援方法等について具体的に検討しました。そのあと、事業所内での支援の取り組みということで事業所に支援計画書の作成をお願いしました。

- ・支援計画書を基に支援いただいて、支援の結果事例の方がどう変わっていくか記録してくださいとお願いしました。支援期間は年明けから1カ月程度で、2月13日に訪問し、結果を振り返る予定でしたが、事業所の都合により中止になりました。
- ・そのあと、事業所と相談支援事業所のスタッフで協議が行われています。内容は、「支援手順書は何を標的にして記録をとるのか迷ってしまう。」「現在、事業所で使用している手順書と様式が違うので見直しが必要である。」「手順書を作成して実際に運用する前に職員に周知する時間が必要だ。」などです。色々事業所を訪問していますが、職員数が多くて全体を統一するのに、かなり詳細な説明や時間が必要で難しいという話はよく聞きます。
- ・この間にも本人の状態や生活が変化するため、どの職員にも同じレベルで行動記録を取ることが可能なかと心配されていたようです。支援手順書の作成については時間が必要ということで、3月末までに完成させ4月から手順書を用いた支援をできるよう進めているようです。次からまとめに入ります。
- ・試行なので年度内で終わるように計画していたのですが、上記のようなハプニングがあったため完了できませんでした。また、事業所内に強度行動障害者養成研修を受講した方がいても、きちんと機能するためには外部専門家の支援が必要だと考えられます。
- ・強度行動障害でも紹介されている記録の取り方ですが、研修を受講していない職員もいるため書き方について別途説明が必要です。また、事業所によって職員の支援レベルが違うため、事業所の実情に合わせた援方法を提供するのは難しいです。
- ・事業所の突発的なハプニングや特定のケースだけに時間や労力を割けないため、問題解決までにある程度期限を決めないで伴奏をしながら支援していくことが必要だと思います。
- ・会議に参加する事業所の職員が1人だったため、事業所全体に周知するのが難しかったようです。もう少し職員に参加してもらうなど事業所全体での周知につながる工夫が必要でした。また、職員全員に統一した支援・対応を求めることは難しいので、事業所内で研修などのアウトリーチの取り組みについて学べる機会が必要だと思います。
- ・支援学校の先生もオブザーバーで参加いただきましたが、都合が合わなくて参加できないことがありました。人数が多くなると日程調整が難しくなることも課題です。

(事務局)

- ・続いて、令和6年9月～10月にかけて実施した「強度行動障害支援研修等に関するアンケート(23ページ～)」について説明します。このアンケートは、障害福祉サービス等事業所の強度行動障害支援の状況を確認するとともに、強度行動障害支援者養成研修を含めた研修や令和6年度から新たに創設された集中的支援加算の運用等に関する意見を把握するために実施しました。また、対象となる事業所にはメールで依頼し電子申請システムにてご回答いただきました。対象事業所については42ページをご覧ください。
- ・対象事業所は、県が実施している強度行動障害支援者養成研修の修了者の配置が算定要件となる「重度障害者支援加算」「強度行動障害児支援加算」、及び令和6年度から新たに創設をされた強度行動障害を有する方の状態が悪化した際に、広域的人材支援人材が、事業所等を訪問して集中的な支援を行った場合に算定ができる「集中的支援加算」の3つの加算について要件を満たした場合に、「重度障害者支援加算」「強度行動障害児支援加算」のいずれかと、「集中的支援加算」の算定が可能となる事業所を対象としました。
- ・23ページに戻ります。計884事業所が対象事業所数となっており、回答いただいたのが108事業所で回答率は12.2%です。回答率が低かった理由について、定かではないですが、設問数が多かった、アンケートの名称を見て、うちには関係ないと判断されてしまったなどの可能性があるのかと思いながら複数の要因があるのだと思います。
- ・アンケート結果は24ページからです。いくつかをピックアップしてご報告します。まず、設問1～設問4は事業所の基本情報を尋ねており、「設問1 事業所のサービス種別」は、放課後等デイサービスが46件と最も多くなっており、次に生活介護事業所が28件となっております。
- ・26ページの「設問4 加算の算定状況」です。重度障害者支援加算と強度行動障害児支援加算をいずれも算定していないという事業所が68件と最も多くなっています。設問5～設問8までは強度行動障害のある方への支援状況について尋ねています。「設問5 強度行動障害支援のある方の受け入れ状況」については、現在受け入れありが58件と最も多いですが、受け入れがない事業所も39件と次いで多くなっています。
- ・27ページの副問5-1では「これまで受け入れていない理由」を尋ねており、利用の相談がない、物理的な環境面や人員配置の面での受け入れが困難という回答が順に多くなっています。
- ・29ページの設問7では「強度行動障害のある方の受け入れにあたっての課題等」を尋ねています。先ほどと同じく人員体制や環境整備が課題という回答の他に、他の利用者さんへの影響が心配だ、知識や経験がなくてその方に合った支援ができていないなどの回答もあります。

- ・30ページの設問9～設問12-7は、強度行動障害支援に関する研修について尋ねています。「設問9 事業所に強度行動障害支援者養成研修修了者がいるか」どうかについては、基礎研修実践研修の修了者が両方いるが56件と最も多くなっていますが、一方で「いない」との回答も25件、23.1%です。
- ・「設問10 強度行動障害支援者養成研修の受講」では、「特に意見なし」が50件であるものの、「受講代が高い」という意見も44件と多くなっています。また、「その他」の内容は副問10-1で、「運営法人が強度行動障害児の受け入れを推進していない」、「日々の業務に追われて研修を受けに行く余裕がない」などの意見もありました。
- ・「設問11事業所で独自に強度行動障害に関する研修等を行っているか」を尋ねており、「独自の研修は行っていない」が52件で最も多くなっています。副問11-2でその理由を尋ねており、「職員の時間確保が難しい」、「研修の講師がいない」が多くなりました。
- ・「独自に研修を行っている」と回答した事業所に対しては、副問の11-1で内容を尋ねており、「強度行動障害支援者養成研修の伝達講習を実施」や「事例検討会を実施」が多くなりました。
- ・36ページの「設問12 市独自の強度行動障害に関する研修が必要か」について尋ねたところ、「研修の内容による」「必要である」が合わせて88件、81%となっています。
- ・「副問12-1 希望する研修の形態」について尋ねたところ、「講義+事例検討」「事例検討+実技」など、組み合わせて行う形態の希望が多くなりました。
- ・37ページ「設問12-3 希望する研修の内容」について尋ねたところ、「事例検討会」「強度行動障害支援者養成研修のフォローアップ研修」が多くなりました。
- ・39ページからは、「集中的支援加算」や「支援施策」に関する質問です。設問13では、「集中的支援加算が運用された場合の利用」について尋ねており、「わからない」68件と多くなっています。理由は40ページの上段で、「加算について理解ができていない」「現時点で対象の利用者がいない」が多くなっています。また、「利用しない」と回答した理由は、「煩雑な作業でこれ以上職員の負担をふやせない」「強度行動障害の受け入れを積極的に行っていない」が挙がっています。
- ・最後に40ページの「設問14 強度行動障害に関する事業所への支援・施策に関する意見」については、研修の開催に関するもの、強度行動障害に関する情報入手、相談の窓口に関するもの、報酬に関するものなどについて意見が寄せられています。

(事務局)

- ・アンケートとは別に、療養介護の現場の対応状況を把握するため、長森構成員が運営している「やまびこ学園」に伺いました。強度行動障害の方が落ち着いた生活を送るためには、環境をきちんと整えることが重要とスタッフの方から説明があ

りましたが、実際に施設を見ると入所の方が生活しやすいように環境を整えて対応しており印象的でした。

- ・今年度アウトリーチ支援の試行における課題や報酬改定で示された集中的支援加算をどう動かしていくかについての課題も見えてきていますので、来年度はこれらの課題を踏まえ、効果的な体制等について検討をさらに進めます。
- ・アンケートの結果を踏まえ、強度行動障害を実践されている方の力も借りて、来年度から「つばさ」を中心に強度行動障害者支援の取り組みを実施します。43ページに来年度予算の概要資料を添付しておりますが、「発達障害者総合支援事業」の中で県の強度行動障害支援者養成者研修のフォローアップになる研修などを企画し少しずつですが、事業所で従事する方への支援を強化していきたいと考えております。

(構成員)

- ・先ほど説明があったアウトリーチは施設へコンサルテーションチームの派遣であって私は少し違和感があります。私たち親の側からするとアウトリーチは、家庭内に引きこもっている状態にある人のところに支援者が出向いて行って支援することです。今日はきちんと説明があったので分かりましたが、これまでの会議では違うイメージをして議論していたので、用語の使い方を明確にしておいた方がいいというのが感想です。

(構成員)

- ・言われることはごもつともで、施設訪問だけではなく、本当に困っている人の家庭へ訪問し、どうやって助けるかがアウトリーチだと思います。ただ、今回は試行とうことで最困難事例は遠慮させていただきましたが、今後の課題だと思います。

(構成員)

- ・今の意見に近いですが、親の立場で一番困るのは強度行動障害が何かのきっかけで突然現れた時です。事業所に行けない、あるいは学校に行けない時など、まさにその時に支援が入る仕組み作りをしてほしいというのが要望です。
- ・今は試行だと思いますが、事業所に行けないと親がすべての負担を受け止めなければならないです。そこで集中的支援があると思いますが、そういった整備体制や、広域的人材の配置などで集中的に支援してもらえる仕組み作りを期待したいと思います。

(構成員)

- ・一番それが重要な問題です。このアンケートからは強度行動障害で激しい興奮状態になった場合どうすべきなのかは見えてきません。
- ・私どもの精神科の病院ですが、非常に興奮状態でどうしようもないので夜間・休日に救急システムを使って、受け入れてほしいという連絡が時々あります。ただ、精神科病院の環境は強度行動障害の方々の療養環境に合った形にはなっていません。北九州市には総合療養センターがあるのだから、そこで総合的に見てもら

える環境になりませんか？と医師会活動や他の会議で市の方にずっと言っていますがなかなか実現しません。親の方々が声を上げていただくのが1番だと思えます。

- ・グループホームなどに強度高度障害児者の方が多くいるということは非常によいことだと思いますが、我々医療従事者が一番心配しているのは、本当に状態が悪い時に、人権に配慮した形で対応されているのかということです。
- ・親御さんは激しい興奮状態の時にどうしたらよいか一番困っていると思いますが、アンケートではその部分が見えてこない。現在は精神科の病院が強度行動障害の方を受け入れる形になっていますが、もっと良い形が作れないかいつも考えています。

(事務局)

- ・精神科の病院に救急で対応してもらうことは多々ありますが、そのお話しを言われているわけではないですか？

(構成員)

- ・精神科の病院は法律の上で受け入れているわけで、そうではなくて私はグループホームなど医療機関以外では人権に配慮されずに対処されているのではないかと心配しています。

(事務局)

- ・実際にグループホームでどういう対応をしているか十分把握できていません。アンケートではそこが見えてこなかったのが、現場の方にヒアリング等をしながら考えていきます。また、ご家族の方が一番困っているところへどのような支援ができるかについても引き続き考えていきます。

(構成員)

- ・厳しいご意見どうもありがとうございます。今回のアンケートとは別に令和3年度にすでにアンケート取っており、さきほど言われた「暴れた時」「家族への支援」については取り組まないといけないということですずっと検討しています。
- ・これは本当に全国的な課題で、国がどうかしてくれるわけではないので地域で考えないといけないと思います。国はアウトラインを示してくれて色々な施策を打ってくれますけど、我々は北九州市がどうするのかということを実際に具体的に考えなければいけません。
- ・色々な思いはあると思いますが、全国的に北九州市はすごく頑張っていると思います。何年も前から本当に真剣に向き合ってもらっています。近くの福岡市には受入れの拠点があったり、支援の仕組みをしっかりと整えています。そこには至っていないという現状はあります。拠点についても同様です。
- ・福岡市にはよく行きますが、皆さんもご存じの通り財政が非常に潤沢です。北九州市は財政的に厳しい状況にあります。では、厳しい状況の中でどうしていくか皆さんと一緒に考えていかないと上手くいかないと思います。

- ・療育センターの話もありますが、実効性のある施策を動かせるのかということ、そういう機能を持っていないのでできません。それなら別のものを考えなければいけません。
- ・発達障害の交流会や勉強会をしましょうと途中お話をさせていただきましたが、目的は強度行動障害の状況になることを防ぐために予防的に研修をしましょうということです。
- ・強度行動障害は暴れた人はどうするのかという問題もありますが、それに至らないようにどう予防するかが非常に重要で、発達障害者支援センター、療育センター、医師会などみんなで協力して多層的な支援をしないと上手くいきません。暴れてどうしようもない場合、どこかで受け入れるしかないので一時的には病院も必要だと思います。
- ・そこから普通の生活にどう移行していくかについても考えないといけないですが、そこは各事業所の方々に任せられている部分だと思います。事業所がどのような対処をしているか分からないですけれども、私は人権に配慮した支援をしていると信じたいです。
- ・専門的な支援がないとどうしていけばよいか分からないので研修会で知識をしっかりと深めていただきたいと考えています。私は北九州市で支援の仕組みを作っていきたいとずっと思っていますので、ご協力をお願いします。

(2)協議事項

(事務局)

- ・46ページをご覧ください。来年度の取り組みの方向性ですが、今年度の取り組みを着実に推進するため、1番目は「つばさ」が作成した支援機関ガイドをしっかりと活用してもえるよう、関係各所への周知・広報に力を入れたいと考えています。
- ・2番目はコーディネーターの交流機会の確保です。地域の支援者同士が繋がることができるよう、既存の仕組みなどを活用しながら、支援者の方に無理がないような形でできればと考えております。
- ・3番目は強度行動障害支援についてです。具体的な施策に向けた協議につきましては自立支援協議会の交流会等の場でアウトリーチの支援のことも含めて考えていきたいと考えています。あと、予算要求をしているところですが、「つばさ」を中心として、強度行動障害の支援者を対象とした研修会の開催などに取り組んでいきたいと思います。
- ・47ページは昨年度開催したワーキンググループにおける検討とその後の取り組みについてまとめています。進みつつある取り組みもありますが、まだまだ手付かずの取り組みもあります。時系列で記載しておりますので、意見をまとめるうえで参考にしてください。

(構成員)

- ・強度行動障害については市で粘り強く伴走しながら進めているところですが、少しずつでも施策を具体的な形にしていきたいと思います。また、施策がどうなっていくのか親の会の方も非常に心配されていると思います。
- ・施策を進めるにも、色々な手続きやステップを踏まなければならないとこの協議会などでお話を聞いて、時間のかかる作業だと改めて思いました。
- ・昨日、自立支援フォーラムがありましたが、この協議会も含めて知らない人が多いのではないかと思います。活動をどんどんPRしていただいてもっと色々な人が関心を持ってくれたら、色々なことが進んでいくと思います。議会が終わっていないので来年度は具体的に何をすると宣言できないと思いますが、周知できることがあればお願いします。

(事務局)

- ・43ページをご覧ください。来年度ですが、研修の内容は「つばさ」と詰めている状況なのではっきりとは言えませんが、強度行動障害の支援者向け研修会をしっかりと行いたいと考えています。また、相談窓口の情報発信もあるのですが、今年度作成した支援機関ガイドをしっかりと活用してもらえよう色々な方に向けて発信したいと思います。
- ・支援者同士の交流の場について自立支援協議会などの今ある場を活用しながら支援者同士がつながるような取り組みも行いたいと考えています。これらが来年度目指したい市の方向性です。

(構成員)

- ・2(2)ですが、もっと具体的に言えば、放課後等デイサービスのスタッフ向けに必修研修として行ってほしいくらいです。漠然と子どもを対象にするというと、さっき言った自立支援協議会とどう違うのかという話になるので、ターゲットをきちんと整理した方がよいと思います。
- ・放課後等デイサービスは良い施設もあれば駄目な施設もある。そこをもう少し標準化していかないと強度行動障害は当然生まれてくるので、もう少し工夫が必要だと思います。
- ・アウトリーチについては、アウトリーチで最終段階に行くために今どの段階にあるか明確でなく説明が足りなかっただけだと思います。全然アウトリーチしていないというわけではなく最終段階に向かっているということはいいいことだと思いますので、活動を維持していただきたいと思います。

(事務局)

- ・ターゲットは放課後等デイサービスという事業所の種別について意見がありました。集中的にやるべきという意見の一方、対象者を幅広くした方がよいという意見もありますので、色々なご意見を聞きながら改めて検討させてください。
- ・アウトリーチの考え方についても見る角度によって違ってくると思います。強度

行動障害に関しては特に専門的なスタッフや施設も足りていないと感じています。また、現時点で、自宅に訪問し支援できる専門的なスタッフが何人位いるのかなと思います。それが実践できるスタッフをまだまだ増やしていかなければならないと思っております。

(構成員)

- ・本日の報告事項及び協議事項について終了しましたので、事務局に返します。

(事務局)

- ・次年度は、年2回開催する予定です。第1回は夏ごろに開催する予定ですので改めて日程調整させていただきます。
- ・本日、チラシを2枚配布しています。1つは「世界自閉症啓発デー」です。4月6日に映画上映、図書館での啓発展示ブースの設置、観光名所のライトアップなどを行いますので、お時間があればぜひご覧ください。
- ・2つめは、「ヘルプマークを知っていますか」です。現在、障害福祉企画課が周知活動をしていますので、ぜひご覧ください。
- ・以上で令和6年度第2会北九州市発達障害者支援地域協議会を閉会します。